

平成30年度 第1回 三浦市在宅医療・介護多職種連携研修

団塊の世代が75歳となる2025年まであと7年。遠くない未来です。三浦市の人口に対する65歳以上の人の割合は、平成30年1月1日現在で38.1%であり、すでに2025年問題に突入していますが、高齢者の皆さんは元気に暮らしています。

これからますます医療需要が増えてくる中、病院や診療所に通えなくなる方のために訪問診療の需要は高まってきます。

そして、医療から介護に移行する場面、介護から医療を受ける場面を迎え、地域包括ケアシステムをしっかりと構築するためには、医療と介護の連携ネットワークがスムーズにつながることを重要だと言えます。

今後、訪問診療の需要に応えられるだけの在宅医はまだ少ないと言えますが、現在訪問診療に取り組まれている先生方は、「訪問診療の現場で起こること、考えること」について、「在宅生活を多職種で支援するために共有すること」で解決しなければなりません。そのためのアドバンス・ケア・プログラム（ACP）を基に、多職種連携で顔の見える関係を深めていきましょう。

今回のテーマは

訪問診療の現場で起こること、考えることは ～在宅生活を多職種で支援するために共有すること～

日 時 平成31年1月25日（金）19時～21時30分（解散）

場 所 ホテルマホロバマインズ三浦 本館13階 会議室

対 象 医師・歯科医師・薬剤師・看護師・准看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・栄養士・歯科衛生士・介護支援専門員・介護福祉士・介護職・社会福祉士・精神保健福祉士・社会福祉主事・その他必要とする関係者

定 員 50名 (先着順)

主 催 三浦市
主 管 一般社団法人三浦市医師会
共 催 鎌倉保健福祉事務所三崎
センター協 力 三浦市地域ケ
ア連携会議
内 容



進 行 三浦市医師会 理事 藁谷 収 先生 (三浦診療所院長)

テ ー マ 訪問診療の現場で起こること、考えることは
～在宅生活を多職種で支援するために共有すること～

講 義



講 師

一般社団法人横須賀市医師会
汐入ぱくクリニック

院長 朴 正晃先生

【略歴】

2007年3月大阪市立大学医学部卒業、2007年4月社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会泉尾病院、2010年1月社会福祉法人生長会ベルランド総合病院、2012年4月大阪市立総合医療センター、2013年4月社会福祉法人生長会ベルランド総合病院放射線科副院長、2013年8月医療法人慶春会武蔵野わかばクリニック院長、2014年4月社会福祉法人恵徳会恵徳会在宅医療クリニック院長、2016年7月汐入ぱくクリニック開設

【資格】

日本医療放射線学会放射線科専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、緩和ケア研修修了

【所属学会】

日本医療放射線学会、日本在宅医学会、認知症治療研究会、点滴療法研究会

グループワーク

質疑応答

参加申込 別紙申込書用紙に、必要事項を記入の上、FAXで、下記あてお申込みください。なお、電子メールにてご案内を希望される方は、お問い合わせ先電子メールに空メールを送信してください。

申込期限 平成31年1月17日（木）

※申込期限前でも、先着50名になり次第締め切りとさせていただきます。

問い合わせ及び申し込み先

一般社団法人 三浦市医師会事務局

TEL : 046-881-2376 FAX : 046-881-2392

E-mail : me156301@pastel.ocn.ne.jp